

多文化共生研究所 主催

# 第5回 ランチセミナー



「日本・インドネシア関係の将来を担う人づくりの試み  
ーガジャマダ大学での日本語再教育と現地日系企業によるキャリア支援ー」  
小座野八光 (中国学科准教授)

インドネシアの高校では第二外国語教育が一般的で、同国の大学には多くの日本語既習者が在学しています。この点に着目し、これらの学生に日本語・日本事情再教育の機会を提供し、現地日系企業へのキャリア支援を試みたものです。



お気軽にお越しください。

日時

2017年7月20日(木) H棟003教室

12:05～12:50 (30分前から開場、食事可)

**飲食自由！お弁当を食べながら、参加してみませんか？**

## 愛知県立大学多文化共生研究所ランチセミナー(第5回)

### 日本・インドネシア関係の将来を担う人づくりの試み

—ガジャマダ大学での日本語再教育と現地日系企業によるキャリア支援(2013~16)—

愛知県立大学外国語学部中国学科 小座野八光

小座野と多文化共生研究所客員共同研究員、加藤淳、高地薫、松井和久からなる愛知県立大学チームは、在インドネシアトヨタ系現地法人5社の協力を得て、2013年から16年の4年間にわたり、同国を代表する基幹国立大学ガジャマダ大学との間で産学連携プログラムを実施した。

国際的にも珍しい事例であるが、インドネシアの普通科高等学校では英語の他に第二外国語が必修となっている。各学校単位で日本・ドイツ・フランス・アラビア等の言語から1言語を選択し、国立教育大学で各言語の教員資格を得た専任教諭の指導の下で、通常2年間、第二外国語を履修することになっている。近年、日本語を選択する高校が非常に増えており、毎年、多くの日本語既習者が高校を卒業しているが、残念ながら、その後は再学習の機会がまったくないため、せっかくの日本語能力も生かされることがない。本学と全学協定を持つガジャマダ大学でも、文系・理系各学部にはこのような日本語既習学生が100人単位で在籍しており、いわば「宝の持ち腐れ」の観を呈している。

一方で、近年のインドネシア経済の成長の中で、現地日系企業は文学部系日本語学科出身の学生には飽き足らず、専門能力と英語力を持った政・経・法・理・工などの実業系学部出身者を競って採用するようになってきている。これらの学部の日本語既習学生たちに日本語再教育の機会を与え、眠っていた語学能力を再度研ぎ出し、同時に日系企業でのインターンシップを仲介して、日本の企業風土や経営理念を理解してもらえれば、現下のニーズにより適合的な知日派人材をシステムティックに養成できるのではないかと、というのが、この産学連携プログラムの基本理念であった。

2013年から16年の4年間に、ガジャマダ大学政治学部、経済学部、法学部、人文学部、心理学部、工学部、理学部の合計100人を超える学生が本プログラムに参加した。うち約30名の学生が、在ジャカルタのトヨタ系法人でインターンシップを経験し、さらに16名の学生が本学に短期留学を果たし、トヨタ、デンソー本体の工場見学、愛知県庁表敬訪問などの機会を得た。なお、これら学生の一部は、卒業後トヨタ系現地法人に就職することができたほか、その他の外資系企業への就職、上級公務員、大学院進学など、それぞれの進路でプログラムで得た経験を生かして活躍している。



ガジャマダ訪日学生の愛知県知事訪問を報じる

中日新聞 2015年2月20付朝刊